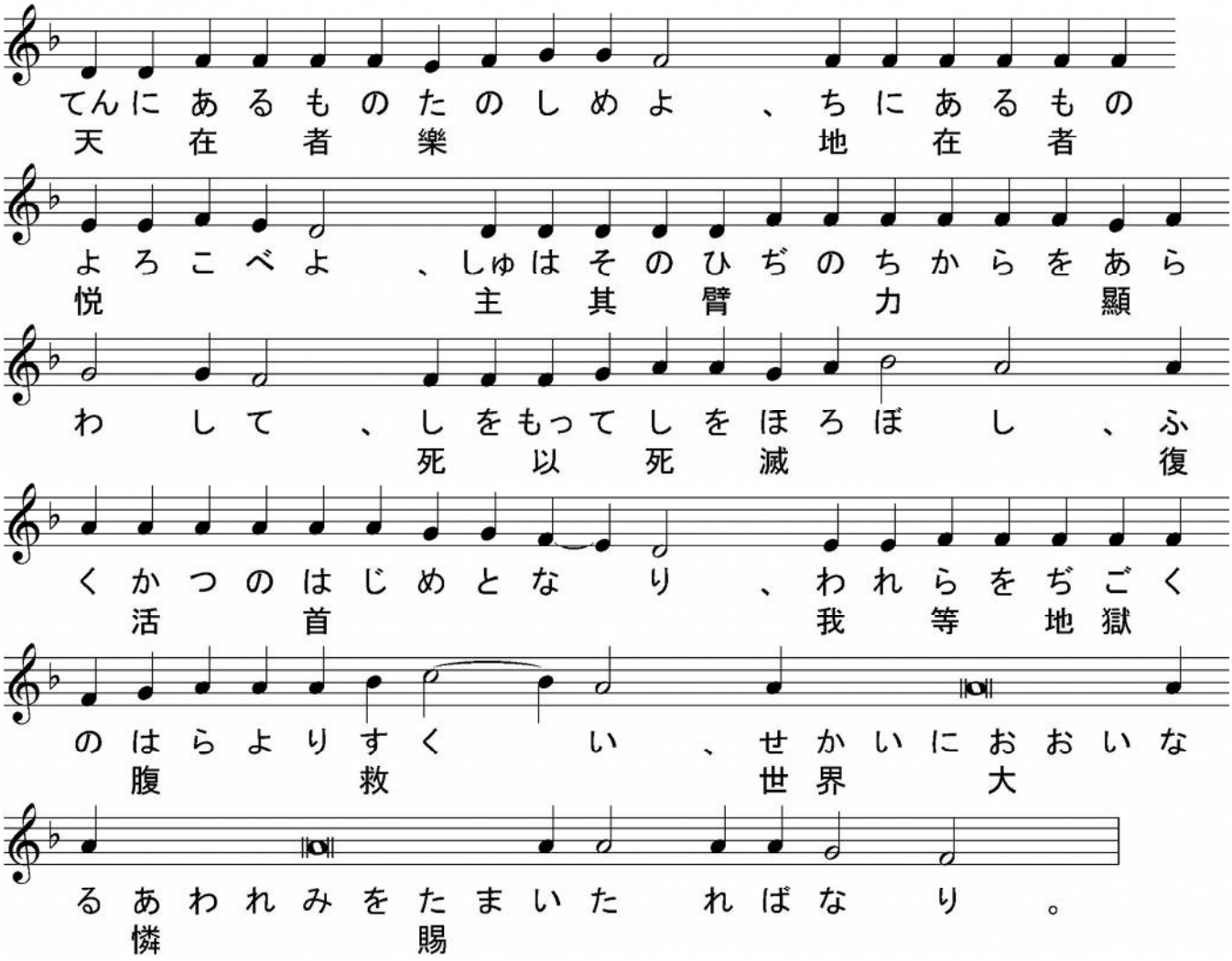
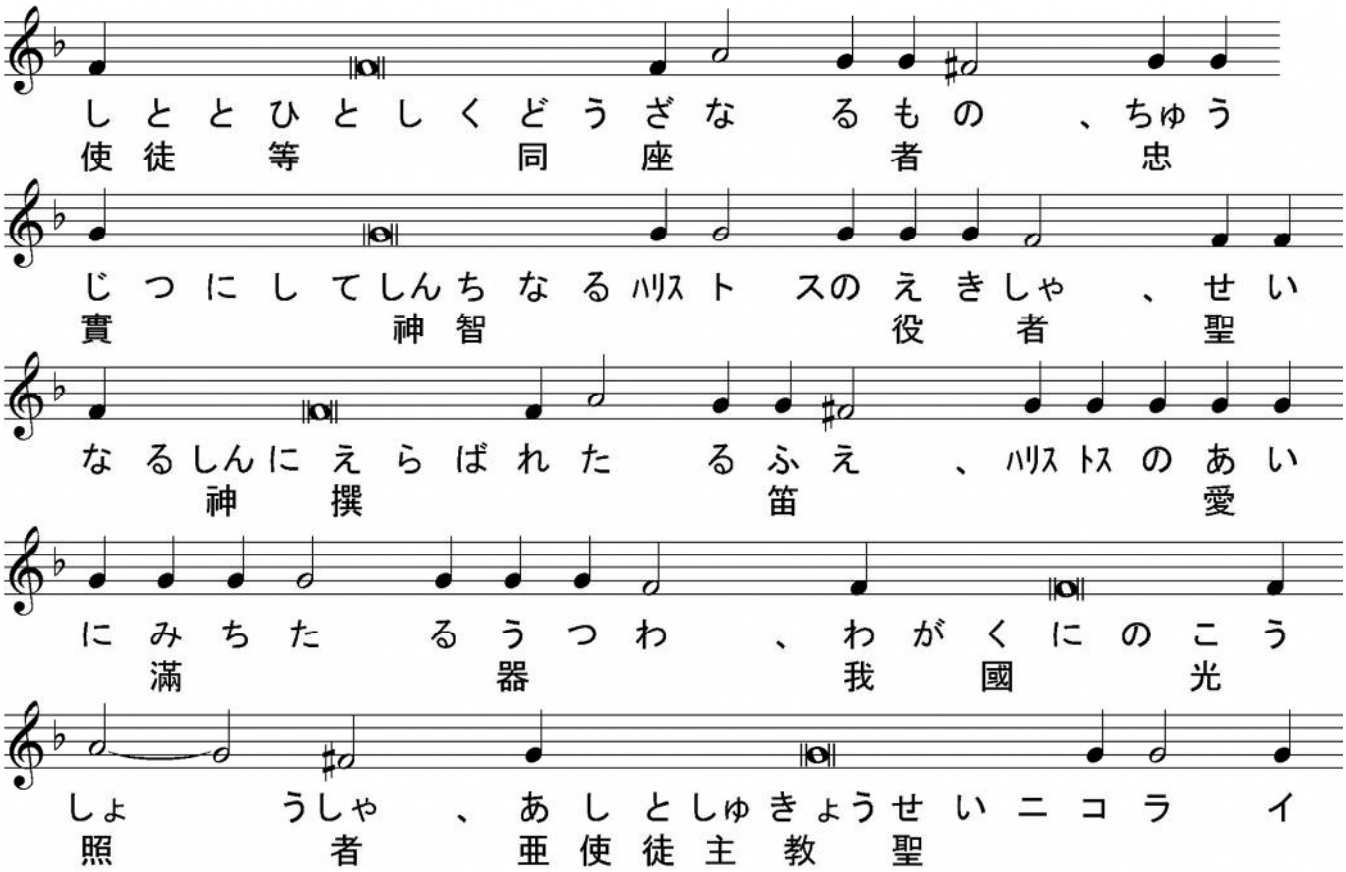
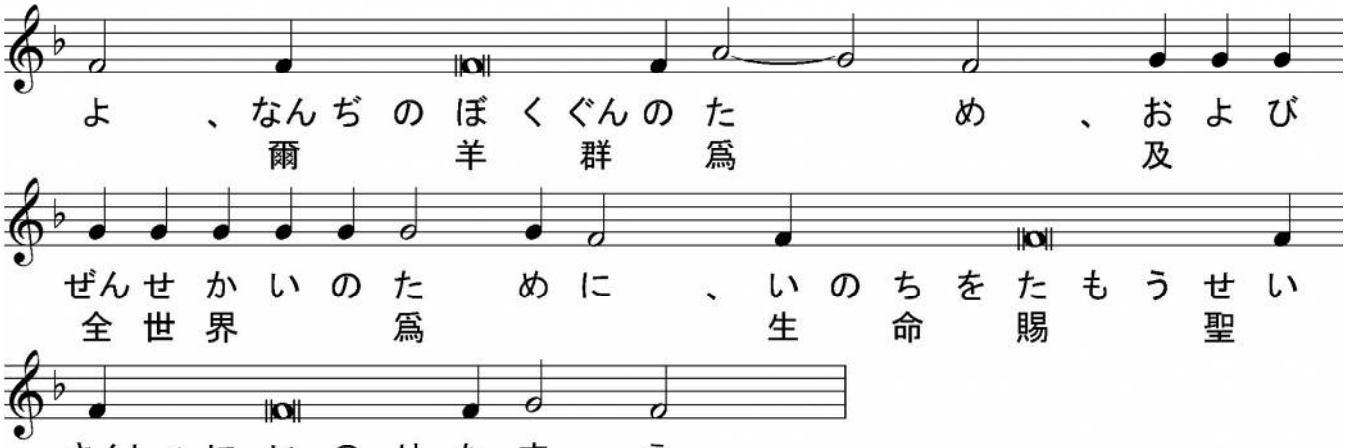
【　復活のトロパリ　第３調　】

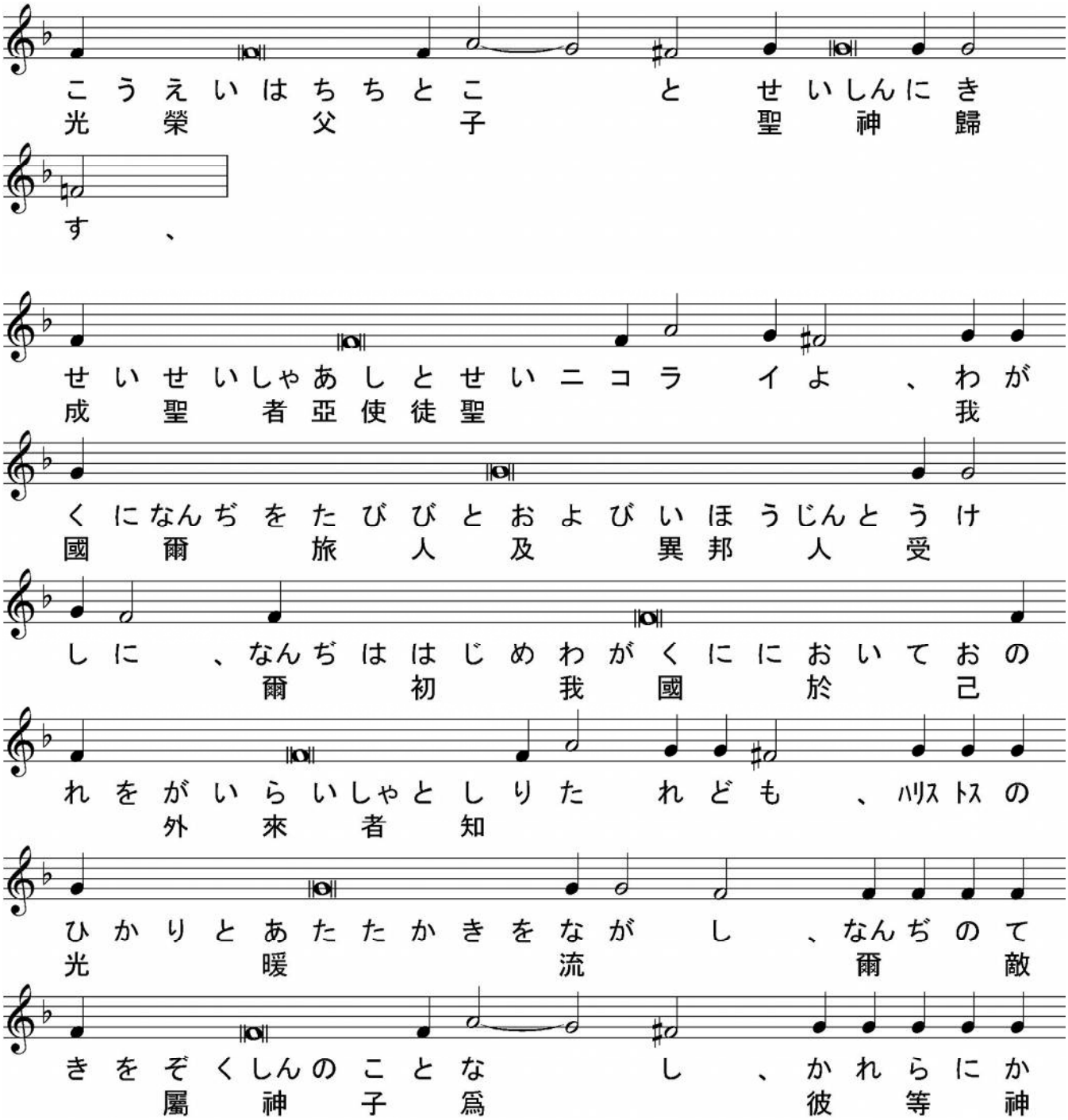


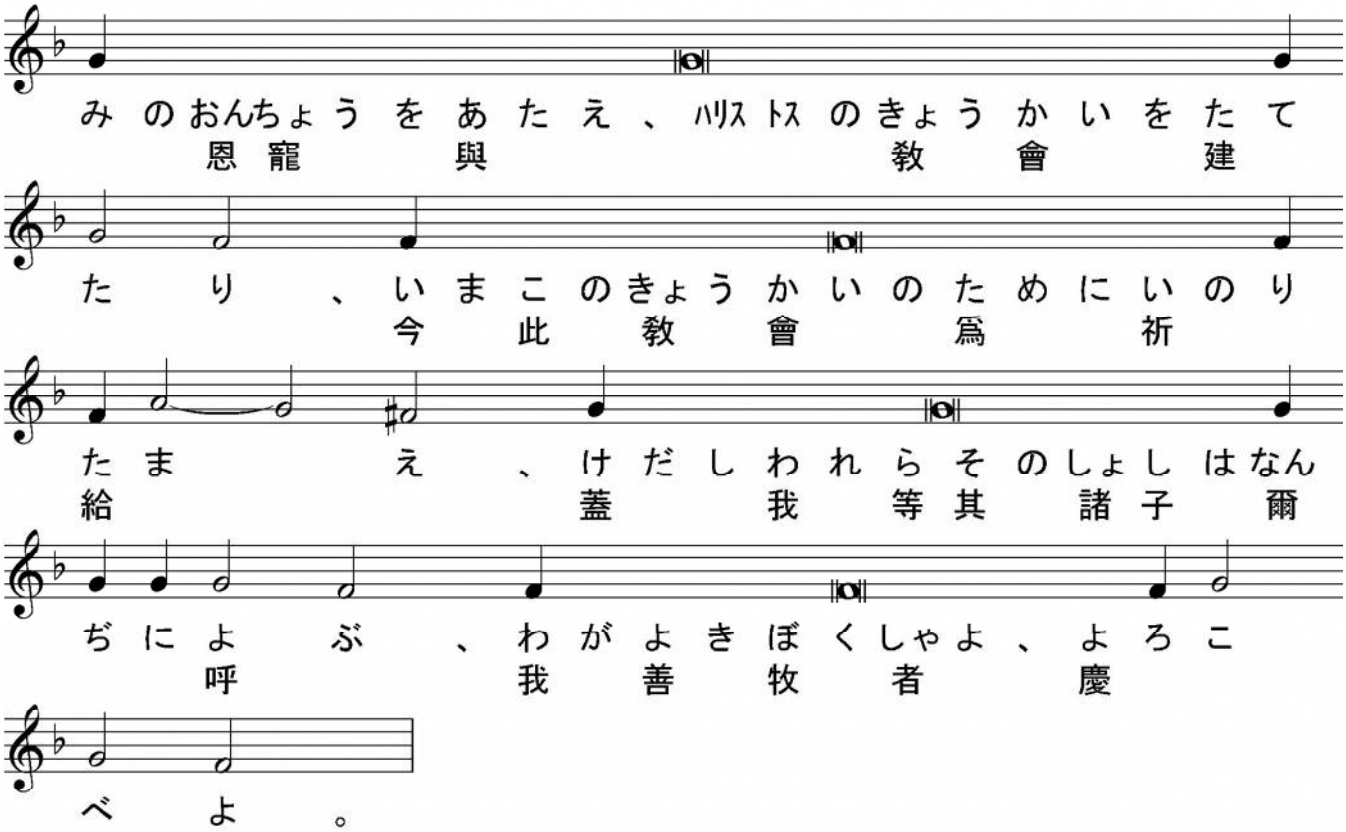
【　日本の亞使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



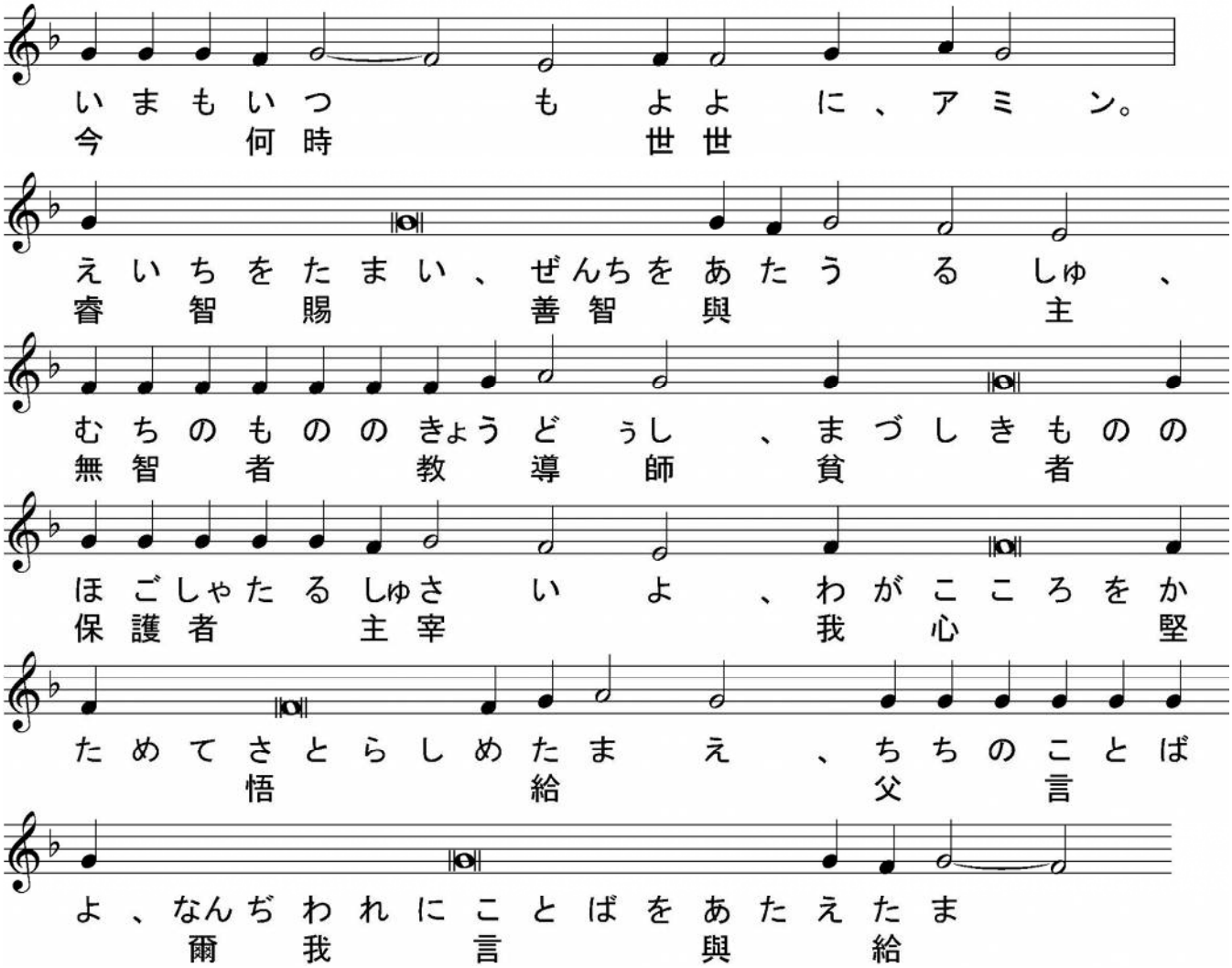


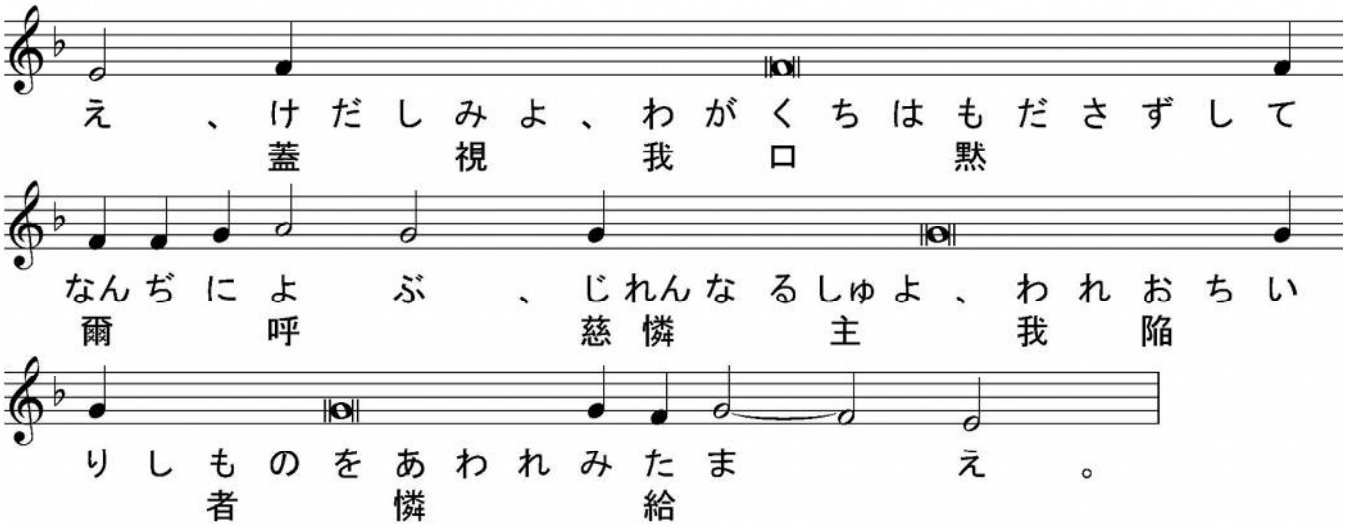
【　日本の亞使徒ニコライのコンダク　第４調　】





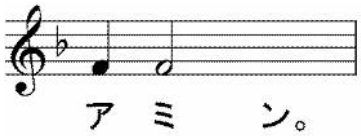
【　三歌齋經のコンダク　第６調　】



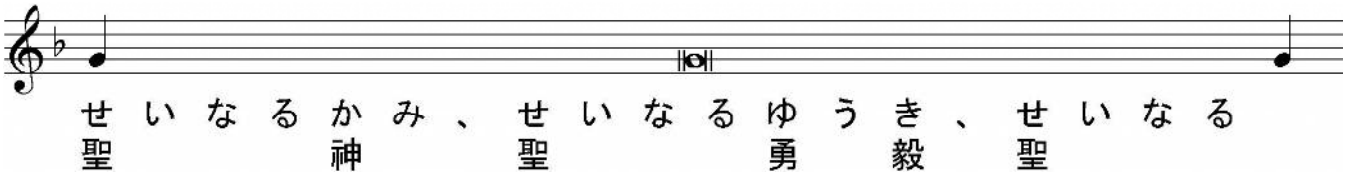


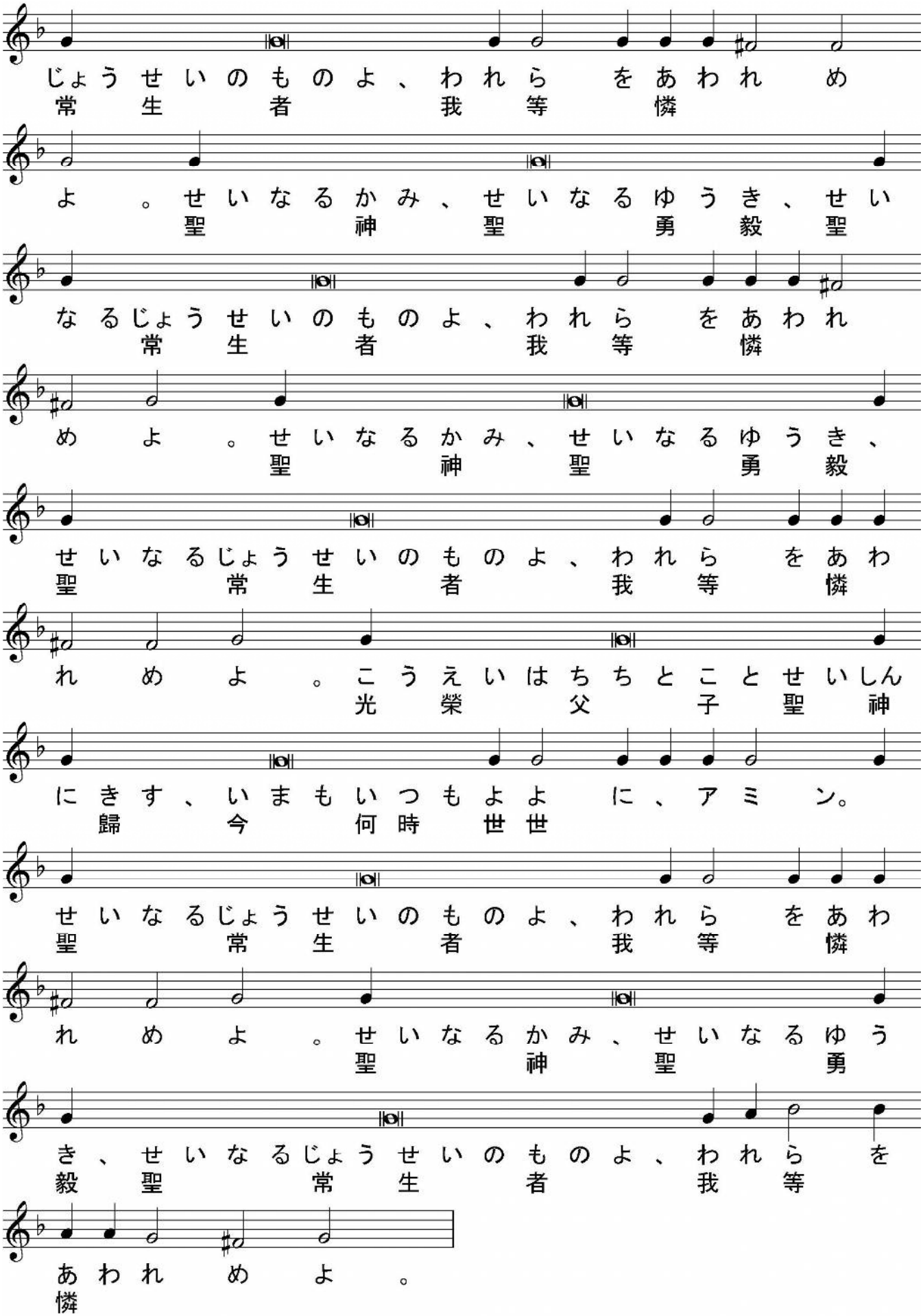
司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭） **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】





司祭）（ 默誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

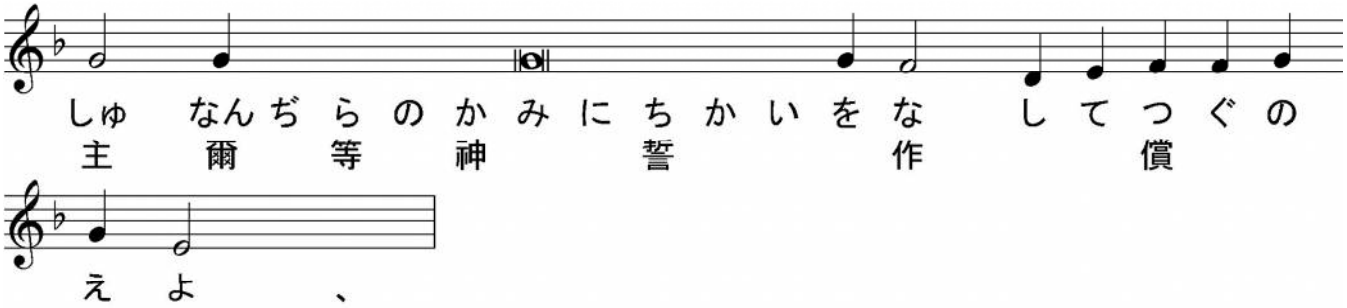
【　提綱　大齋前の主日　第８調　】

司祭）　愼みて聽くべし、衆人に平安、

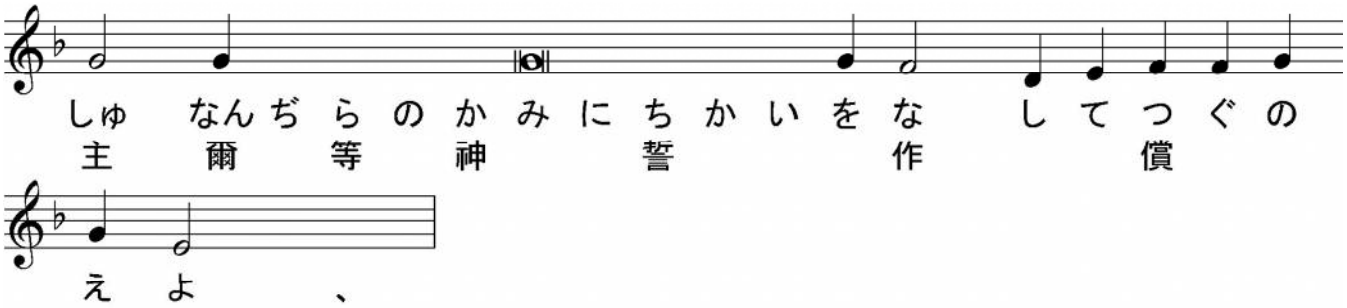
誦經）　爾の神にも、

司祭）　睿智、

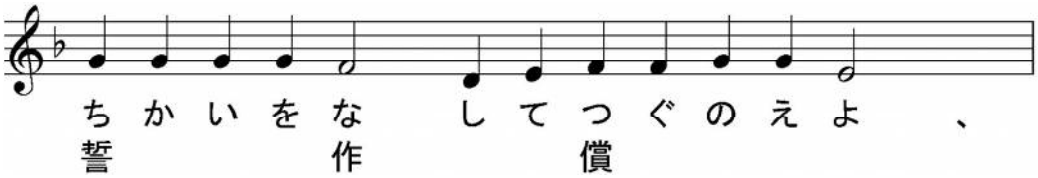
誦經）　プロキメン、主爾等の神に誓を作して償えよ、



誦經）　神はイゥデヤに知られ、其名はイズライリに大なり、



誦經）　主爾等の神に



【　使徒經　112端　ロマ書13章11節～14章4節　】

司祭）　睿智、

誦經）　聖使徒パヴェルがロマ人に達する書の讀、

司祭）　謹みて聽くべし、

誦經）　兄弟よ、今は我等が初めて信ぜし時に較ぶれば、救は更に我等に近し。夜過ぎて晝

邇づけり、故に我等昏昧の行を除きて、光明の甲を衣るべし。我等晝に在るが如く、行を美しくすべし、饕餮及び沈湎好色及び邪侈、争鬪及び嫉妬すべからず。乃爾等は我が主イイスス ハリストスを衣よ、肉體の慮を慾に變ずる勿れ。信の弱き者は、意見を詰らずして之を納れよ。蓋或人は凡の物食うべしと信じ、弱き者は野菜を食う。食う者は食わざる者を藐る勿れ、食わざる者は食う者を議する勿れ、蓋神は彼を納れたり。爾は何人にして他人の僕を議するか、彼は己の主の前に立ち、或は倒る。且彼は立てられん、蓋神は之を立つるを能す。

＊＊＊

（比較用　口語訳）今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。信仰の弱い者を受けいれなさい。ただ、意見を批評するためであってはならない。ある人は、何を食べてもさしつかえないと信じているが、弱い人は野菜だけを食べる。食べる者は食べない者を軽んじてはならず、食べない者も食べる者をさばいてはならない。神は彼を受けいれて下さったのであるから。他人の僕をさばくあなたは、いったい、何者であるか。彼が立つのも倒れるのも、その主人によるのである。しかし、彼は立つようになる。主は彼を立たせることができるからである。

＊＊＊

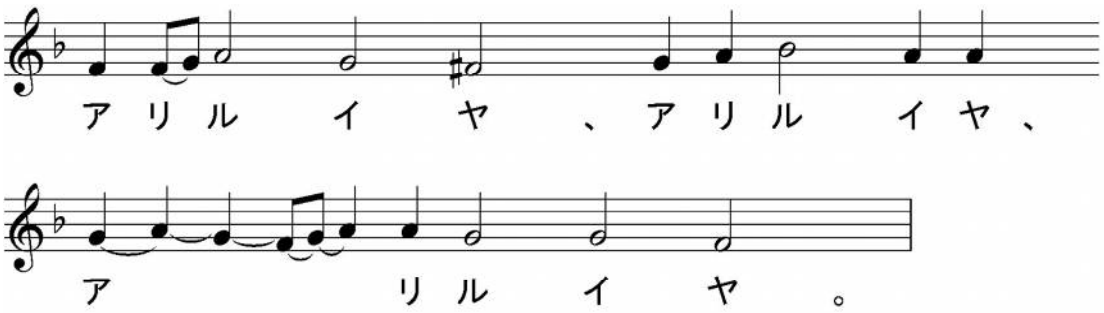
【　アリルイヤ　大齋前の主日　第６調　】

司祭）爾に平安、

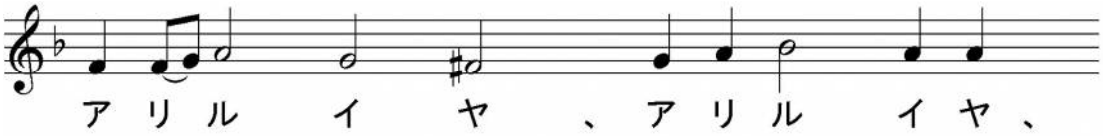
誦經）爾の神にも、

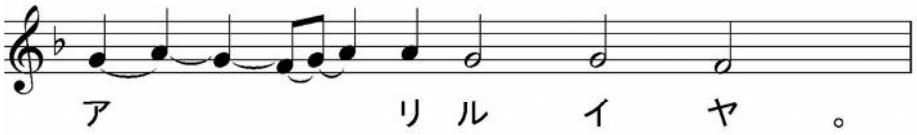
司祭）睿智、

誦經）アリルイヤ、

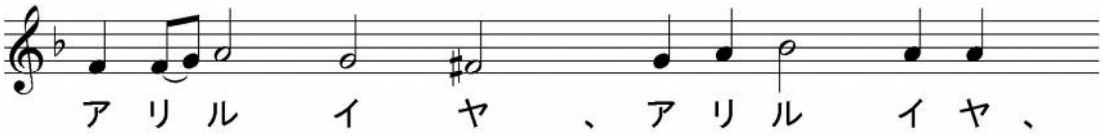


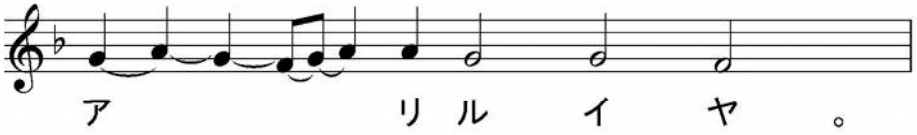
誦經）至上者よ、主を讃榮し、爾の名に歌うは美なる哉、





誦經) 爾(なんぢ)の憐(あわれみ)を朝(あさ)に宣(の)べ、爾(なんぢ)の眞(まこと)を夜(よ)に宣(の)ぶるは美(び)なる哉(かな)、

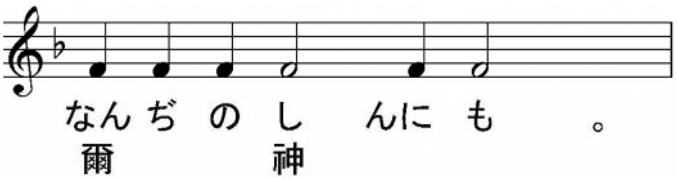




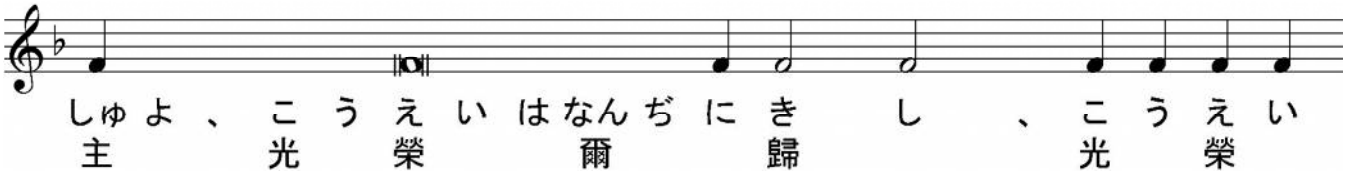
司祭) (黙誦: 人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の浄(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思念(しねん)の目(め)を啓(ひら)きて、爾(なんぢ)が福音(ふくいん)の教(おしえ)を悟(さと)らしめ給(たま)え、我(わ)が衷(うちなんぢ)に爾(なんぢ)の福(ふく)たる誡(いましめ)を畏(おそ)るる畏(おそれ)をも入(い)れて、我等(われら)が悉(ことごと)くの肉體(にくたい)の慾(よく)を踏(ふ)み、凡(およ)そ爾(なんぢ)の喜(よろこ)ぶ所(ところ)を思(おも)い且(か)つ行(おこな)いて、屬神(ぞくしん)の生活(せいかつ)を過(す)ぐるを致(いた)させ給(たま)え、蓋(けだし)ハリストス神(かみ)よ、爾(なんぢ)は我(わ)が靈(たましい)と體(からだ)との光照(こうしょう)なり、我等爾(われらなんぢ)と爾(なんぢ)の無原(むげん)の父(ちち)と至聖至善(しせいしぜん)にして生命(いのち)を施(ほどこ)す爾(なんぢ)の神(しん)とに光榮(こうえい)を獻(けん)ず、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、アミン。)

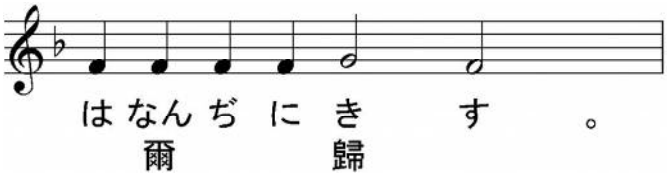
【 福音經(エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 17 端 6 章 14〜21 節 】

司祭) 睿智(えいち)、肅(つつし)みて立(た)て聖福音經(せいふくいんけい)を聽(き)くべし、衆人(しゅうじん)に平安(へいあん)、



司祭) マトフェイ傳(でん)の聖福音經(せいふくいんけい)の讀(よみ)、



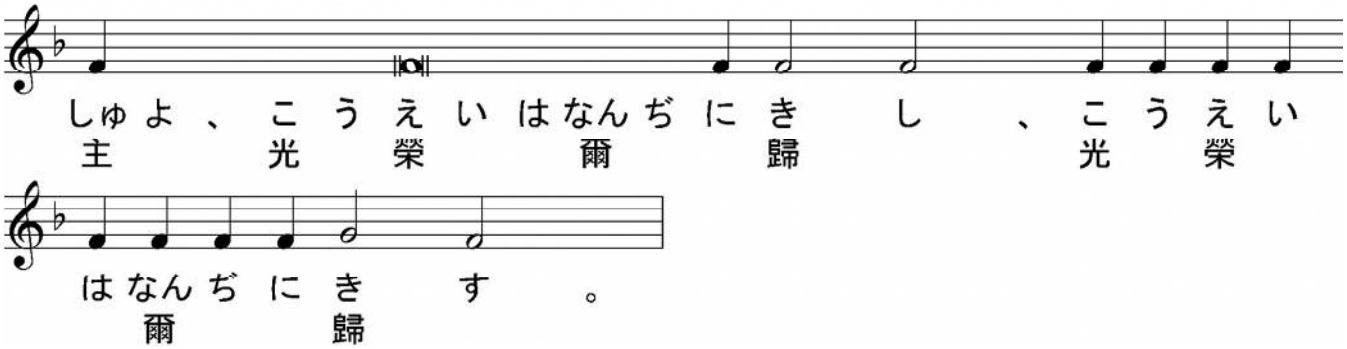


司祭）謹みて聽くべし、若し爾等人に其過を免さば、爾等の天の父は爾等にも免さん、若し人に其過を免さずば、爾等の父も爾等に過を免さざらん。又爾等齋する時、僞善者の如く憂わしき容を爲す勿れ、蓋彼等は、其齋の人に顯れん為に、顔色を損う、我誠に爾等に語ぐ、彼等は已に其賞を受く。爾齋する時、首に膏ぬり、面を洗え、爾の齋の人に顯れずして、隱なる處に在す爾の父に顯れん爲なり、然らば隱なるを鑒みる爾の父は顯に爾に報いん。爾等の爲に財を地に積む勿れ、此處には蠹と銹と損い、此處には盗穿ちて竊む。乃爾等の爲に財を天に積め、彼處には蠹も銹も損わず、彼處には盗穿ちて竊まず。蓋爾等の財の在る處には、爾等の心も在らん。

＊＊＊

（比較用　口語訳）もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言っておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においでになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。

＊＊＊



※　聖体礼儀③（金ロイォアン）へ